

合併に関する“質問”について考えてみましょう。～その3～

「平成の市町村合併」... 長野県内をはじめ全国各地で新しい市町村が誕生しています。

Q なぜ、「今」市町村合併が必要なのですか？

21世紀は、「混迷の時代」と言われています。
それは、今後、超少子・高齢化から急激な人口減少社会になり、従来の制度や常識が通じない社会が訪れるからです。



●なぜ、「今」市町村合併が必要なのでしょう。人口問題から、もう一度、考えてみましょう。



成人式（望月町）

高齢化率は30%目前です。生産年齢人口2人で1人の高齢者を担う社会です。

【20年後】 超少子・高齢社会が現実

少子化傾向に拍車がかかり、年少人口割合は9%台になります。
市町村にとって、生き残りをかけた厳しい試練の時代です。
小規模な町村は、自治体としての機能を失い、足腰の強い自治体だけが生き残ります。
佐久地域の未来を担うことのできる自治体が求められます。

だからこそ、今、将来を見据え、市町村合併が必要だ。



農業体験（浅科村）

「団塊の世代」が老年人口に入ります。
高齢化率は、急速に上昇を続け、日本の半分以上の市町村で高齢化率が30%を超えます。
生産年齢人口2.5人で1人の高齢者を担う社会です。年少人口は、前年より30万人以上も減少します。

【10年後】 本格的な高齢社会に

わずか10年後、今までの制度や常識は根底から揺らぎ始めます。

*このため、現在、国では従来の社会保障制度などの見直しについて議論が行われています。

「今のままで何とかなる」という時代は終わりました。
小規模な町村では、住民サービスの提供が困難になると予想されます。

新しい自治体の体制づくりには、合併後10年を要すると言われています。

だからこそ、今、将来を見据え、市町村合併が必要です。



八回一ベビー（佐久市）

日本の人口は、1億2,700万人です。現在の人口がピークで、これからは減少の途をたどると予測されています。

【現在】 少子・高齢社会への入口

人口割合の一番多い団塊の世代とその子供たち（第2次ベビーブーム世代）が社会を支える年齢（生産年齢人口）にいます。生産年齢人口3人で1人の高齢者を担っています。
現在、日本の一人の女性が生涯に出産する子供の数を示す「合計特殊出生率」は1.32人です。
この数値が2.08人以上ないと現在の人口を維持することはできません。
現実に年少人口（15歳未満）は、昨年より20万人（新市の人口の2倍）も減少しています。
私たちは、確実に少子・高齢社会に足を踏み入れています。

本格的な少子・高齢社会が訪れる前に、私たちの決断が求められています。

だからこそ、今、将来を見据え、市町村合併が必要です。